

おおま

議会だより



夢をのせて

新造船「大函丸」進水式

No.

76

平成25年1月4日発行

主な内容
12月定例議会

- | | |
|----------------|-----|
| ○新年のご挨拶 | P 2 |
| ○平成24年 第4回定例会 | P 3 |
| ○一般質問 | P 4 |
| ○報告 | P 5 |
| ○「大函丸」進水式・編集後記 | P 6 |



石 戸 秀 雄
議会議長

新年のご挨拶

平成25年の新春を迎え、町民の皆様にご挨拶を申し上げます。

町民の皆様には、平素より議会活動並びに町政運営に対しまして暖かいご理解と絶大なるご協力を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

本年も旧年に倍しまして、大間町のさらなる発展のために、ご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。昨年を振り返ってみますと、国内においては、3年余りの民主党政権から衆議選に圧勝した自民党が政権復帰を実現し、安倍連立政権がスタートするという変革の年でありました。

しかしながら、景気は後退局面にあり、デフレ脱却を見通せない状況であります。低迷を続ける日本経済の再生策をどのように進めるのかが大きな課題であり、それに加え、原発などエネルギー政策のあり方等、多くの不安材料を抱えております。

このような中でも財政健全化をはじめとして行財政改革を着実に進め、多くの課題を克服していく必要があります。一方で、行政需要はその質・量とも複雑多様化するなど、行政としての舵取りが一層厳しい状況にあります。

このような中、大間町においては、東日本大震災によって工事が中断していた大間原発について、昨年10月、事業主体の電源開発(株)が建設工事を再開いたしました。今後は安全対策を一義に運転開始を目指していくこととなります。

また、大間町では、昨年、町制が施行されてから70年を迎え、11月3日に記念式典が挙行され、今後の町づくりへの決意を新たにいたしましたところでもあります。次に、大間・函館フェリー航路についてですが、多額の公費を投入することとなりますので、住民の利便性等を考え、この投資が最大の効果が得られるよう多くの議論を重ねてきました。その結果、新造船の必要性で一致し、公設民営で運航することとなりました。新フェリー「大函丸」は12月13日に進水式が行われ、いよいよ本年4月より就航することとなりました。フェリーを新造して良かったと言われるようにするため、議会として今後も活動をしていかなければなりません。

町議会といたしましては、町民の皆様の声に耳を傾け、その声を町政に反映させていくため、さらなる努力と研鑽を重ね、皆様の負託にこたえるべき決意を新たにいたしております。

どうか、町民の皆様におかれましては、これまでにもまして議会活動にご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成24年 第4回定例会

会期12月3日～12月5日

平成24年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ2970万2千円を追加し、予算の総額を65億2074万円とした。

国民健康保険 特別会計

歳入歳出それぞれ2496万3千円を追加し、予算の総額を10億3473万2千円とした。

海峽保養センター 事業等特別会計

歳入歳出それぞれ770万1千円を減額し、予算の総額を1億6070万5千円とした。

介護保険 特別会計

歳入歳出それぞれ5814万3千円を追加し、予算の総額を5億884万3千円とした。



下水道事業 特別会計

歳入歳出それぞれ2783万2千円を減額し、予算の総額を2億3312万円とした。

水道事業会計

支出の営業費用で3万5千円を減額し、収益的支出の総額を1億3853万2千円とした。

指定管理者の指定

海峽保養センター 養老センター

・(株)グリーンストアー
代表取締役
正根 秋雄

・平成25年4月1日～
平成28年3月31日
3年間



老人福祉施設 「くろまつ」

・(社)大間町社会福祉協
議会
会長 浅見 恒吉

・平成25年4月1日～
平成30年3月31日
5年間

大間・函館フェリー 「大函丸」

・津軽海峽フェリー(株)
代表取締役社長
石丸 周象

・平成25年4月1日～
平成36年3月31日
11年間



陳情

・生活保護基準の引き下げはしないことなどの意見書の提出を求める陳情書
産業民生常任委員会に付託

・消費税増税の中止を求める意見書の提出を求める陳情書
総務教育常任委員会に付託

・「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書の提出を求める陳情書
総務教育常任委員会に付託

※上記以外の議案も含め11議案を原案どおり可決されました。



一般質問



野 崎 信 行 議員

**Q プラスチック漁船
処理場を設置せよ**

A 船の所有者が処理業者に依頼して処理するのが基本と考えるので、町として設置する考えはない

**Q 大間病院について
整形を週2回にできないか**

A 週2回は難しい

Q 原発工事再開の住民説明会を実施せよ

A 事業者が説明をしているので町として考えていない

**Q 奥戸交流館にエア
コンを設置せよ**

A 多少暑いですが、空気攪拌機を4機設置し

ているため、以前より良好と聞くなり設備の中で、適正な管理に努める

**Q 幼稚園、病院行き
のバスを別々にしてほしい**

A 単独での患者輸送は現時点では難しいが、委託・廃止を視野に入れ検討する

Q 光ファイバーの活用計画は

A 必要性を考えて検討する

**Q 奥戸と蛇浦越えの
道路をつくれ**

A 県の中山間事業計画の中で進めていく

**Q 大間共同墓地道路
の環境整備をせよ**

A 舗装計画はないが、適切に整備していく

**Q 下水道整備の町民
負担について**

A 助成金制度があり、供用が開始された日から3年以内に排水設備工事を実施する場合、工事代金の1割を助成
ただし、上限がある

**Q ピロリ菌の治療費
を補助せよ**

A 現在、特定健診に力を入れているがピロリ菌については考えていない

**Q 夢の大橋建設につ
いての考えは**

A 民間団体と共に今後も推進に向けて、末永く声を出していく活動を続ける

**Q 少年刑務所を誘致
すべきと思うが**

A 住民の理解が必要で非常に難しい

**Q 海底活断層調査を
町では確認したか**

A 会社からの説明で問題ないと理解している

**Q 可搬型通信装置を
設置せよ**

A 事業者が設置すべきものと考える

**Q 大間ジオパークを
設置推進せよ**

A 下北半島ジオパーク構想推進協議会が発足しているので、その中で協議していく

**Q 漁船遭難の場合の
GPS活用せよ**

A 対応機種があるので漁協と相談していく

**Q さる、熊の被害金
額は出ているのか**

A 青森県の調査結果で、市町村別農作物被害状況が公表されている

**Q 大間原発被害想定
シミュレーションを
策定せよ**

A 国が実施するものであるが、先般、全国原子力発電所所在市町村協議会において早急に公表するよう要望した

**Q まぐろ会館を建設
せよ**

A 商工会館の内部に、まぐろに関するデータ等を揃え、観光等に活用できるように検討する

**Q 奥戸じゃがいもに
力を入れよ**

A 三円いもをブランドにするため勉強していく

**Q 捨て犬をやめる啓
蒙が必要だ**

A 広報で啓蒙していく

**Q 企業誘致について
町長の考えは**

A 現在の情勢を考えると大変厳しいと思われるが、今後も原発関連企業の誘致に努める

**Q 役場の中に原発専
門対策課を設置せよ**

A 全課職員少ない人数の中で頑張っている、ご理解願いたい

**Q 大間町に遊休農地
はいくらあるのか**

A 大間町全体で47haある

**Q 大間高校に原子力
科を設置せよ**

A むつ工業高校に設備エネルギー科が設置されている
少子化の中で大間高校への設置は厳しい

**Q 日本まぐろサミツ
トを開催せよ**

A 今後、検討する

**Q オフサイトセン
ターを新釜へ**

A すでに県に推薦している場所がある

**Q 東京大学原子力
キャンパスを誘致せ
よ**

A ハードルが高く非常に難しいが調査する

報告

第8回全国原子力発電所立地議会サミット開催

「テーマ」フクシマから何を学ぶか〜エネルギーとしての原子力発電



原子力発電所や、関連施設を立地している自治体の議会で構成されている議長会が、原子力の課題や、各立地地域の固有の問題などの情報を交換することを目的に、11月20日〜21日の2日間、東京品川プリンスホテルに400名以上の参加者が集うなか、第8回全国原子力発電所立地議会サミットが開催された。東日本大震災後初めて開催される「サミット」は、原子力発電所のあり方を巡り、地域、又、各自治体のなかでも意見が割れている現状を反映したものとなった。

基調講演を聞いた後、五つの分科会に分かれ議論を展開した。

「第1分科会」
福島原発事故の検証と被災自治体の課題

「第2分科会」
原子力発電所の防災・安全対策と再稼働

「第3分科会」
エネルギー政策の方向と諸課題

「第4分科会」
高経年化対策と核燃料サイクル

「第5分科会」
今後の原子力政策と地域振興のあり方

原子力施設を抱える地域の議会としては、切っても切り離せないテーマが並ぶが、各分科会とも原子力発電所の稼働の有無が議論となり、テーマがおおざなりになった感は否めない。国の方針が定まらな



い事と、被災地域と産業界・原子力発電所がもたらす経済の恩恵の濃淡など、経済を支えるエネルギーの観点と、地域住民の安全・安心を守ると言う相容れないと思える意見が交錯するサミットとなったような気がする。

(記)加藤

新造船 大函丸 進水式

「船名を命名する石戸議長」



「フェリー特委宮野委員長」



関係者がレッドカーペットを踏みしめ、台座に乗っている新造船に対する場所に設置された進水式会場に勢揃いする中、町長・議会議長が入場して来た。開会の辞・国旗掲揚後、議長が船名を命名し7点鐘が鳴らされ、進水準備完了報告・進水作業が開始された。いよいよクライマックスの町長による支綱切断の儀式である。

金色に輝く斧が町長に手渡され、関係者がかたずをのみ見守る中、掛け声とともに力強く斧が振り下ろされると同時に、シャンパンが割れ、くす玉がはじけ、テープと紙吹雪が船体を覆い隠した。

会場から外に目を移すと、見学に来ていた大勢の人たちの手から色とりどりの風船がいつせいに離され、真つ青な空に舞い、船体は湖面のように静かな瀬戸内海に滑り降りた。その雄姿に、会場の関係者から拍手と大歓声が上がった。(記)加藤



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年12月には国政選挙が行われ、自由民主党が圧勝し、デフレ脱却と景気回復に大いに期待をしたい。

また、大間町長選では金澤満春氏が、無投票で3度目の当選となった。

金澤町長にはこの先4年間、町政発展の為にしっかりと舵を取っていただきたい。私共、議会人も協力をし、町発展の為、尽くします。

(記)竹内

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

千代谷 誠

委員

竹内 弘

野崎 信行

小林 和美

宮野 昭一